

第二回中間報告

(報告期間 2020 年 9 月 21 日 ~ 2021 年 2 月 21 日)

基本情報

氏名：畑中直人 (国際ロータリー第 2710 地区 2020-2021 年度 地区補助金奨学生)

派遣クラブ：三次ロータリークラブ

カウンセラー：前田 茂様

受入クラブ：Rotary Club of Bordeaux

カウンセラー：Ms. Danièle Faivre

教育機関：ボルドー・モンテーニュ大学

Bordeaux Montaigne University

専攻分野：アフリカダイナミクスに関する学際的研究

Master Interdisciplinary Studies of African Dynamics (MIDAF)

目次

1. 学業面での成果
2. 受け入れ地区でのロータリーとの関わり
3. 生活面
4. 直面した課題、問題点等
5. 今後の課題、目標

1. 学業面での成果

夏休みの長期休暇中は語学学校で授業を受けました。仏語での卒業論文やレポートなどの文章作成能力をあげるために要約や、サンテーズの課題を重点的に頑張りました。サンテーズとは、複数の資料を分析して、そこから得られたいくつもの結果を1つの文章にまとめることです。サンテーズの作成には主観的意見は含まず、同じ単語は繰り返さず他の語彙で言い換えるといったルールがあります。仏語の表現力の豊かさ、論理的かつ美しい文章の型や構成は、まさにこのようなところからきていると実感します。この技術は語彙力や文章読解力など総合的な力が必要で一朝一夕では身につかないので、夏休み以降も定期的にフランス語の先生に添削をお願いしています。

9/21 から修士課程2年目前期の授業が始まりました。コロナウイルスの第二波の影響で、2020年の10月30日から再度ロックダウン(10/30-12/15)となり、その後はZoomを使ってのオンライン授業に切り替わりました。

前期に実施された授業は以下の通りです。

- ・地方分権による協力
- ・アフリカの農業
- ・セミナー
- ・水資源とその課題
- ・地図作成と統計2
- ・鉱物収入と環境保全 *マダガスカル人の講師が来仏できず実施されず

国際協力の授業（「地方分権による協力」）では、国際協力分野におけるフランスの地方自治体の立ち位置や役割、その発展の概要について学びました。講師は外部講師の方で、La Charente Maritime le département(Nouvelle Aquitaine)シャラント＝マリティーム県（ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏:フランス南西に位置する）の国際開発支援事業担当者の方でした。現地のカウンターパートとのZoomミーティングの機会もあり、ギネアで実際におこなわれている、マングローブでの塩生産者支援事業の目標・成果・課題について、支援者・被支援者の両方の視点から学ぶことができ大変意義深い講義でした。

「アフリカの農業」では、食料安全保障について、農地拡張にともなう農地収奪や土壌劣化などの社会政治的問題、環境問題について学びました。講師の研究地域である東アフリカの事例を中心に扱い、各国・地域の農業の地理的生産体制特徴や課題について考察しました。授業の学びをもとに研究課題では、コンゴ民主共和国のキャッサバの商品化の現状と農業部門の成長に向けた課題について書きました。

「水資源とその課題」の授業では、前半はアフリカの水問題について包括的に学びました。インフラや衛生面の課題について、灌漑などの農業での課題、早魃や洪水といった気候変動による水関連災害の問題について学び、水資源が持続可能な開発においていかに大切なのか学びました。後半の授業では、ナイル川流域国の水資源をめぐる議論について学びました。豊富な水資源を開発に生かすため、ナイル川上流地域で水力発電のための巨大ダムが数多く建設されていますが、下流地域国との間で水をめぐる対立が激化しています。ダム建設がもたらす環境的な影響や流域国のそれぞれの背景について学び、水に関する様々な視点を理解することができました。

「地図作成と統計 2」はソフトウェアの学習の授業で、地図を扱ったイラスト作成を練習しました。ソフトウェア QGIS に搭載されている GIS(地理情報システム)を用いることで、特定領域の算出や、分布密度の可視化などをすることが可能で、そのために複数の地理空間データを操作し編集することが必要です。授業では地図や Google 衛星写真、駅の分布図、道路の路線図などのデータを 1 つのファイルに組み合わせる練習をしました。最終課題では、ある自治体の商業施設の分布図を作成するというもので、私はボルドー郊外の自治体 (Bouscat) におけるレストランの分布図を作成しました。

私の修士課程では、2 年目後期に 3 か月以上のインターンシップをすることが卒業条件になっています。そのためインターンシップ探しのためのセミナーがありました。採用者の目にとまるような履歴書・志望動機書の書き方や、面接時において気をつけるポイントなどを学びました。インターン探しのために、私はまず卒論のテーマについて、教員の 1 人とメールで相談しながら決めました。自分のテーマに合った NGO をいくつか紹介してもらい、インターンシップの選考書類を送りました。



同級生との写真

2.受け入れ地区でのロータリーとの関わり

会合には参加できていませんが、カウンセラーのダニエルさんとメールで新年のご挨拶などのやりとりをさせていただきました。お互いの都合のいい日を決め、近いうちにダニエルさんの自宅での昼食会に参加させていただく予定です。次回の報告書では、ダニエルさん宅での昼食会の様子を紹介できたらと思っています。

3.生活面

5/12に1回目のロックダウンが終わり、6月上旬には飲食店が再開したため、友人たちと何回か食事出掛けたり、バーに飲みに行ったりしました。7,8月は規制がかなり緩和されていたので、夏休み中は旅行にも行くことができました。感染対策をしながら、トゥールーズやモンペリエを訪れ、気分転換をすることができました。しかしながら、9月以降1日新規感染者の数が連日1万人を超えるようになったので、2回目のロックダウンの可能性も頭で想定しながら、生活していました。

10月17日から新型コロナウイルスの第二派を受けた措置の強化がとられ、各都市の感染状況に応じて都市レベルで夜間外出禁止令が導入されました。しかしこの措置の効果はかなり限定的だったため、10月30日から2回目のロックダウンが決定しました。許可される外出理由や形態証明書形態などの基本的な仕組みは、1回目のロックダウンの際と同じでしたが、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校は感染対策を強化した上で継続されました。大学は先述したように遠隔授業に切り替えになりました。2回目のロックダウン開始当初、アジア人に対する暴行被害や暴行の呼びかけがSNSで一部出回っていたので、どうしても外出する際には身の回りにはいつも以上に気を付けていました。

2回目のロックダウン開始当初1日の平均新規感染者数が5万人ほどでした。ロックダウン終了時には5000人まで抑えることが政府目標で、達成した場合には文化施設（劇場、美術館、映画館）を再開するという方針でした。しかし2月21日現在も1日の平均あたり1万5000人から2万人ほどの新規感染者数が出ているため、文化施設はもちろんのこと飲食店も閉鎖されたままで、さまざまな規制が継続・強化されています。

12月15日にロックダウンが終了し、日中の外出の際に外出証明書を携帯する必要はなくなった代わりに、夜8時から6時までの外出禁止令が導入されました。1月16日からは、外出禁止令の開始時間が繰り上げられフランス本土全体で、夜6時に繰り上げられ現在も続いている状態です。外出禁止令は感染拡大に効果をあげていますが不十分であり、変異種の感染拡大予防のために2021年1月31日（日）から以下の新たな規制措置が導入されました。

- 1月31日（日）午前0時より、EU 圏外からの入国・EU 圏外への出国を原則禁止とする。EU 圏内からの仏へ入国する際にも、空路、海路、陸路ともに72時間以内の陰性証明が必須。
- 1月31日（日）より、売場面積2万㎡を超えるショッピングセンター（食品以外）を閉鎖する。
- 企業には改めてテレワークの増強を要請する。
- 夜間外出禁止の違反や、飲食店の違法営業、大人数での闇パーティーなどの違反行為はさらに徹底して取り締まる。

上記のようにいまだに多くの制限がかかり、この状態が長期化しているため精神的な負担がかかっているのは否めません。私は、料理をする、週2回ほどジョギングをするなどすることでリフレッシュし、心身ともに健康的な生活を送れるように心がけています。また2回目のロックダウン終了以降、6名以内の集会は許可されているので、時々友達の家で昼食をとったり話したりすることで孤立を防ぐようにしています。



12/23-25 で実施されたクリスマスのイルミネーションの様子
夜8時までライトアップされた。

4. 直面した課題、問題点等

学業面での大きな課題はインターン先の決定です。インターンシップでの業務を通じて、卒業論文に関連する調査・研究を行うことを想定しています。そのため、アフリカの農村開発支援や、土地問題の活動を行っているNPO・NGOを希望していますが、難航している状態です。新規感染症コロナウイルスが原因でアフリカへの渡航は厳しい状況で、フランスでのテレワークになること、希望分野のインターンにならず、卒論とは切り離れたインターンを行うこと、卒論内容を変更することも視野に入れています。

生活面での大きな変化は引っ越しをしたことです。コロナ関連で調整の不具合により、1年目

に住んでいた大学寮から昨年7月末にアパートに引っ越しすることになりましたが、保証人制度に苦労しアパート探しはかなり難航しました。フランスでは、住居を借りる側が、フランス人であっても外国人であっても、ほぼ必ず保証人が必要となり保証人はフランス人でなければなりません。保証人になってくれるフランス人がいない場合は政府が行っている VISALE という無料の保証サービスの恩恵を受けることができ、外国人学生も年齢制限(18-30歳まで)がありますが利用することができます。しかしながら VISALE を利用する借主を受け入れるかどうかは貸主の自由で、人的保証人がいることを賃貸契約する条件にしてる場合が多いです。今現在住んでいるアパートは家具付きのアパートで、家賃2ヶ月分の敷金(頭金)を支払うことを条件に契約を結ぶことができました。

5. 今後の目標

次回の報告書では、インターン先や自分の仕事の紹介などができればいいなと思います。難しい状況下ではありますが、ボルドーロータリークラブの皆様と交流できる機会を自分から探していきたいと思っています。